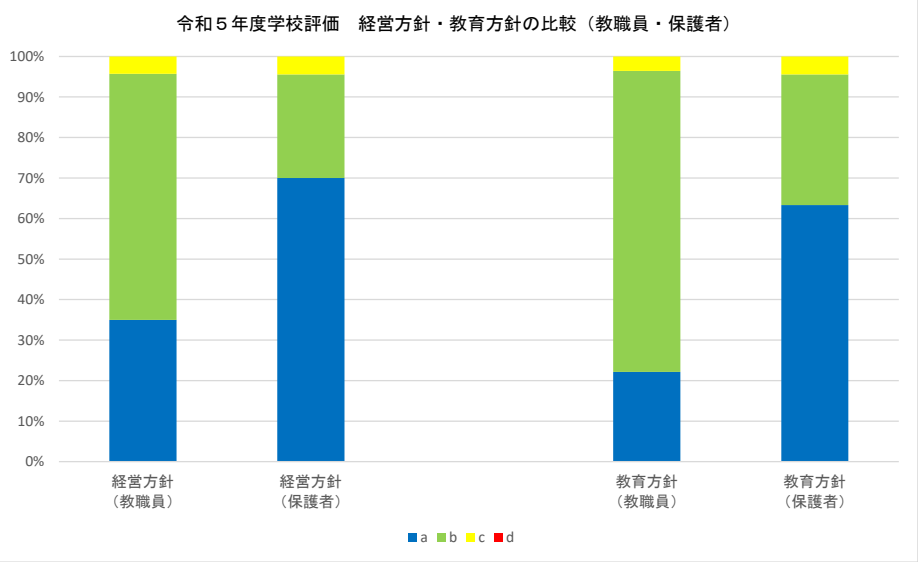
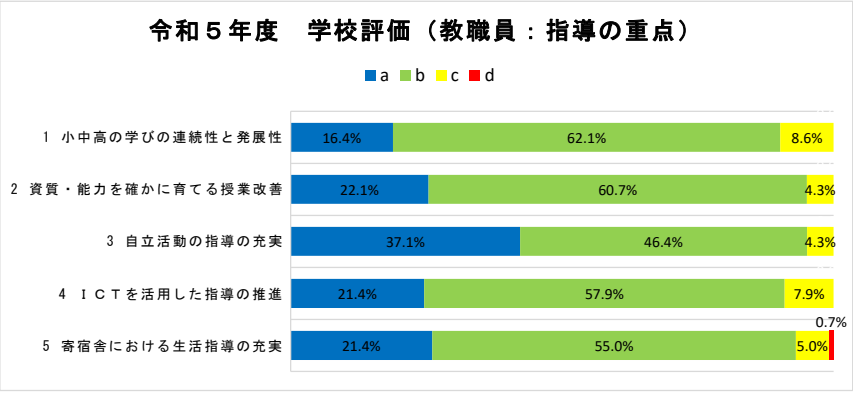
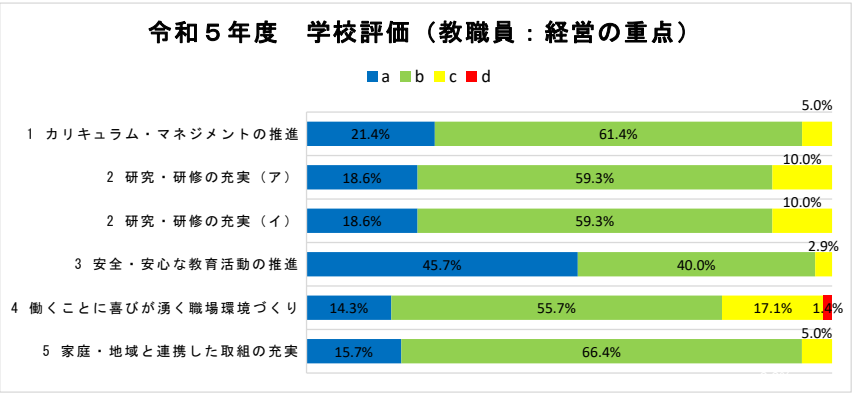
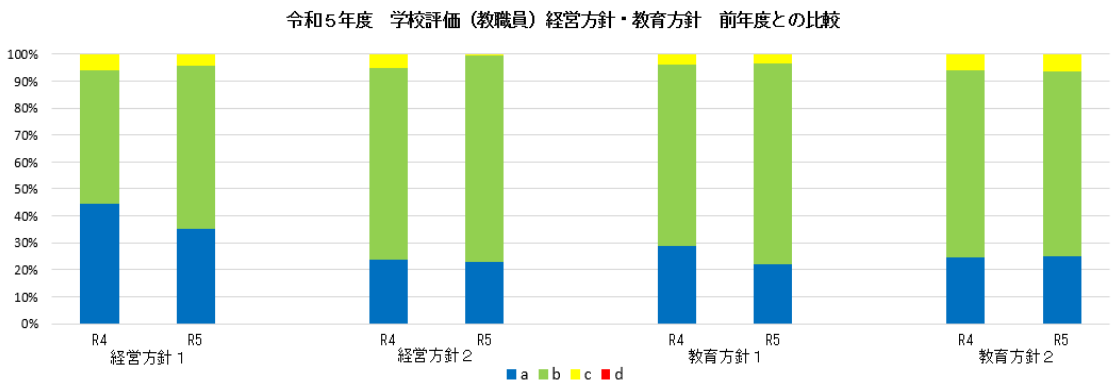
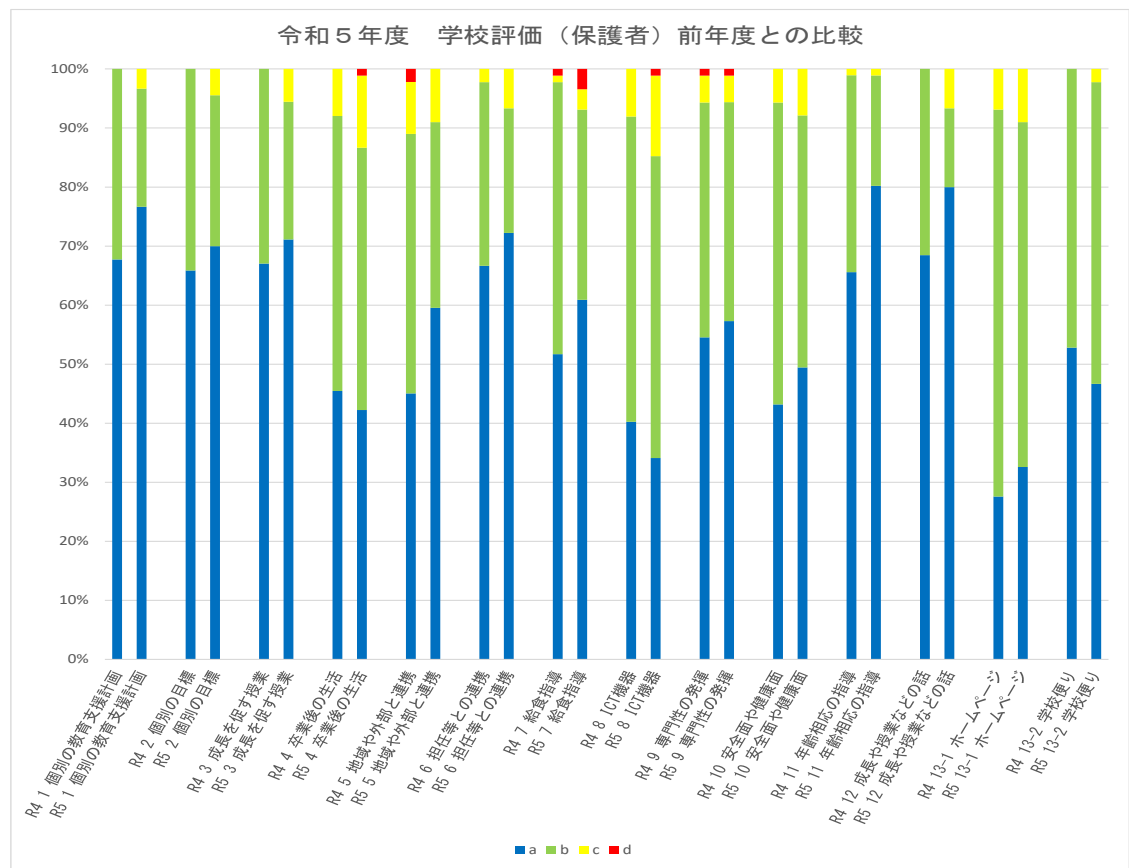
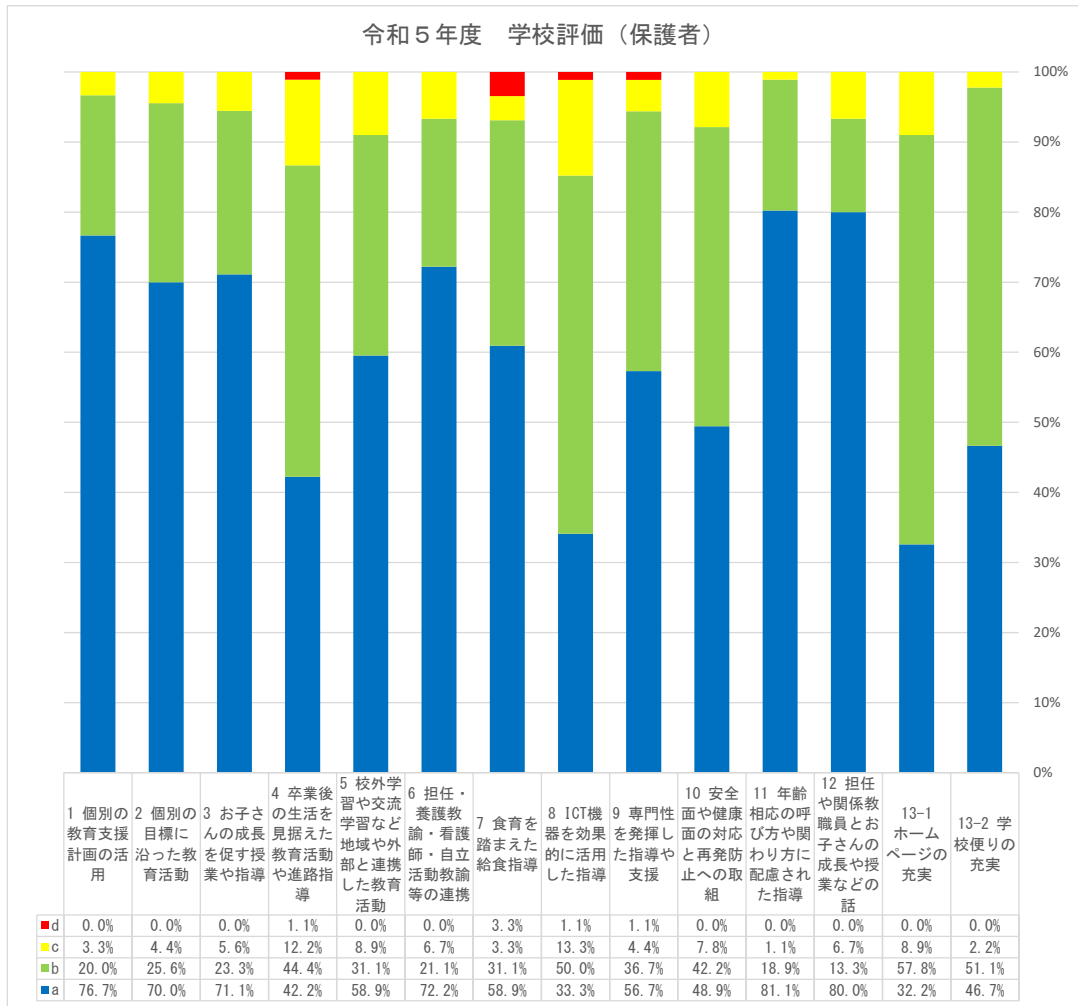


令和5年度 学校評価

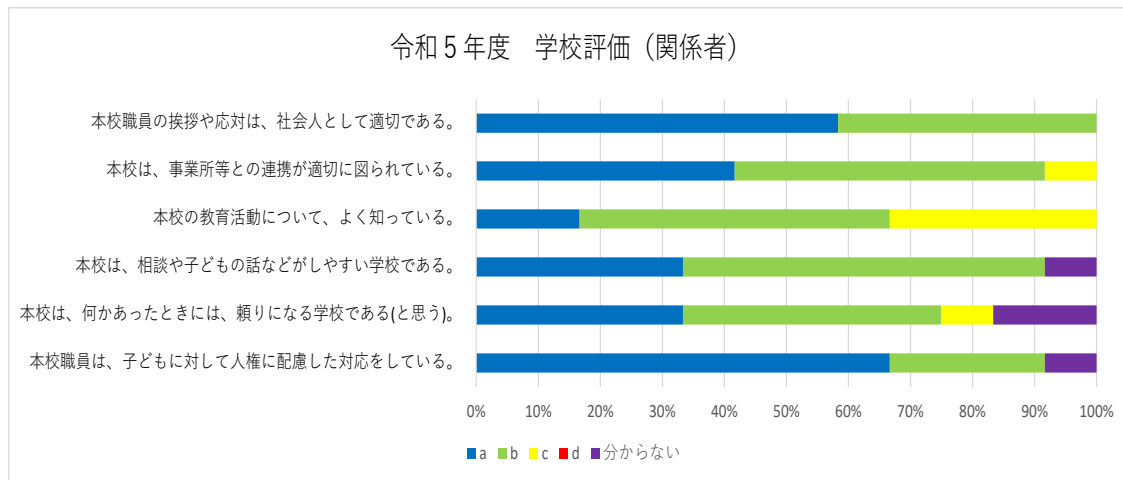
■ 教職員評価（対象：132（常）+16（非） 回答数132（常）+8（非） 回収率：95% ※常勤職員は100%）



■ 保護者評価（対象：132 回答数90 回収率：68.2%）



■ 関係者評価（回答数12）



考察・今後に向けて

- 人権に配慮した指導について、今後はさらに地域や関係機関と連携した教育活動が増えていくことが予想されるため、個人情報の保護と合わせて、児童生徒の生活年齢と発達年齢、適切な関わりを通じた人権への配慮などの視点を踏まえた取組の徹底を図っていきます。
- 児童生徒の健康管理に関わる取組が一定の評価を得られたと考えられる一方で、職場環境としては十分であるとは言えない状況です。各組織や部署間、並びに個人情報の情報共有を深めるとともに、それぞれの取組や業務推進状況が見えるような仕組みづくりを進め協働体制の改善を図っていきます。
- 「校外学習や交流学习」については、今後も児童生徒の教育的ニーズと教育課程に基づき、系統性のある校外学習や交流学习等を推進します。
- 「学びのグランドデザイン」、「個別的教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用に関する手引き」等に基づき教育課程上の課題の整理と改善に取り組むとともに、教育実践に関わる情報共有や情報発信を通して指導の系統性を検証します。
- 「卒業後の生活」については、引き続き情報発信の方法や共有の在り方について、検討や工夫を実施します。
- 「給食指導」については、食形態やアレルギー対応など個別性が高い取組であるため、児童生徒個々の実態等に関わる保護者及び関係職員による情報共有と、丁寧な対応を進めていきます。
- 「ICT機器の活用」については、各学年やグループ等の推進状況に応じた保護者への丁寧な説明が必要であると考えられるため、ICTの活用に関わる専門性の更なる向上につなげるための研修の充実と、職員相互並びに保護者との情報共有を充実を図ります。